

白浜地区学校再編に関わる地区説明会での意見等について

I. 開催概要

説明会	開催日	会場	参加者数	
			保護者・市民	検討委員
保護者対象	令和8年1月13日(火)	白浜コミュニティセンター	19人	15人
地区住民対象	令和8年1月16日(金)	白浜コミュニティセンター	26人	15人

II. 保護者対象説明会での意見・質問

【学校の位置・スクールバスに関すること】

1. 千倉小学校のクラスを分けて一部を白浜小学校に来てもらう、(学区を)分断すること
とは難しいか。

A. 旧七浦小学校区などが想定されるのだと思うが、これは地区の成り立ちなどから極めて難しいと思っている。

2. デジタル化が進み、子ども一人に対して端末を与えるなどの構想が出ている中で、難しいというところがどこまで歩み寄れるか。こういった形で難しいのか。学校を合併してもイタチごっこで、そのままこの問題解決に繋がるのかといたら、自分はどうしても納得いかない。もちろん子どもが5人・6人になったときに男女比が変わって、クラスの問題が起きるとするのは、学校の教育上どうなんだろうと思うところはあるが。

A. 今七浦地区に住んでいる小学生が白浜小学校に通学しても、そんなに大きな人数とならないと思うし、今千倉小学校に通っている子どもたちの一部を、「あなたたちはこっちへ通いなさい」ということは、親子や地区の理解は得られないと思う。

タブレットを使っての合同の授業などは、通学が可能な範囲では、人と人を通して、子ども同士の触れ合いがある状況で育てていくのが一番あるべき姿だと思っており、現時点では全く想定していない。

3. 千倉小学校にバスで通っている子たちは、どのくらいいるのか。

A. 児童が274人いるうちの166人。

A. スクールバスに乗れるのは通学距離が2キロ以上の子どもで、今まで徒歩で通っていた子たちがスクールバスに乗るようになることもある。なお、登下校のときの安全確保の観点から、通学距離が2キロ以内でもスクールバス通学を希望する人もいる。

4. 資料4に「30分程度でスクールバスを使用した通学が可能である」とあるが、どこまでを30分程度とするのか。50分も30分程度として考えているのか。

A. 35分とかせいぜいそのぐらいで、50分は想定していない。スクールバスは、大きなバスで学校から一番遠いところまで1路線で走らせるのではなく、小さめのバスで小刻みにして、子どもたちが乗っている時間を少なくするような工夫はしている。

5. 根本から乗った子が30分程度で本当に着けるのかは疑問である。

A. 実際に使うバスで何度も試走して、確認してやっていく。

6. 小学校は、今ある白浜小か千倉小を使うのか。間に新しい小学校を造る案はないのか。

A. 財政的な状況も踏まえて、今の両方の学校、新たな場所も含めて検討し、合同会議で提案していきたい。

7. 距離の問題は大きい。場所はこの辺にしましょうというのを先にはできないのか。

A. 子どもたちの小学校生活をどう送らせたらよいか、これでいいのかについてまず結論を出し、合意を得て、その後の段階として位置について協議していただきたい。

【白浜地区での学びに関すること】

8. 白浜はとてもいい場所だし、もっと可能性がある町だと思っている。子どもがいないから学校をなくすというより、子どもがいい環境をどんどん増やしていければ、学校はもっと楽しくなると思うし、素晴らしい町になっていくのではないか。学校が町からなくなるのはインパクトが大きいし、それによってどんどん「元気ないな、この町は」となっていくのは、とてももったいないと思うので、残す方向で私は考えたい。

A. 学校統合しても白浜小学校の学区が無くなるわけではない。他地区でも、両方の学区

のいいところを学習の場としているので、白浜の自然や良さは統合しても学ぶことができる。逆に、少ない人数で男女比の偏りがあったりすると、白浜学区ではない学校を選ぶ人も出てくる。いろんな意見をいただき、検討委員会で結論を出していただきたい。

【再編の時期に関すること】

9. 統合するか残すかについて、どちらも良いと感じている。小学校の先生方は全学年の子どもの名前を覚えていると思うが、子どもが大人に頼れる環境はすごくいいと思っていて、少人数はいいなと思う。教育環境の後に距離の話ということだが、小学生が長い距離をバスに乗る難しさから、どちらを先に決めるかについては思うところがあった。

また、白浜小を残すのであれば、どこまで耐えられるのか。再編をするとしたらいつぐらいなのか。

A. 子どもたち同士のぶつかり合いの中で自分や相手の理解を積んでいくと思うが、これが少人数になってくると、その点が非常に危惧されるため、今提案しているところである。統合の時期は、協議をしていって、いろんな準備があって3年はかかるかと。個人的には、早くても令和10年度なのではという見通しは持っている。

【教員数に関すること】

10. 複式学級になったときの教員不足は、予算的な問題なのか、それとも現実的に教員不足で全国から募集をかけても人が来ないとか、ある程度の人数がない限り教員を増員することができないなどの決まりがあるのか。デジタル化により穴埋めするなど、検討している例はあるのか。

A. 教員不足は全国的に言われているが、教員のなり手がいない等の理由での教員不足とは、複式学級は本質的に違う。教員の配置数は法律で決まっており、学級数プラス一人の教員が配置される。館山では複式学級で4学級のところがいくつかあるようだが、今度の再編で全部解消する方向になっている。複式学級ができると教員数に余裕がなくなり、誰かが休んだ際などに、校長・教頭が出るしかなくなり、学校経営の負担が重くなっていく。

11. 先生が休んだら自習にすればいいのではないかと。校長先生が授業に出てくれるのは、子どもの気持ちになったとしたらすごく嬉しいことであって、大きな学校だったらできないだろうし、学校の先生との距離が近いことで、ある意味デメリットが解消できるの

ではないかなと思った。

【会議の進め方に関すること】

12. 決定の仕方についての公平性はどう考えているのか。

A. 再編検討委員会で方向性の結論が出たら、再度説明会を開き、その際に意見・考えがあれば、その時点で答えるというやり取りをしながら合意形成をしていく。基本的には多数決はとらないで、とことん協議して方向性を見出していく形をとっている。

13. 白浜が残る場合の想定されるパターン、こうだったら残していいんじゃないかという話はあるのか。

A. 再編検討委員会で、4人・5人の学年の子どもたちでやっていく、統合しないという結論に至った場合は、説明会を開いて、地区の方々からおおむね反対の意見がなければ、統合はしないというような結論をいただくことになる。

14. 教育は、同じ学校に行って先生に教えられたことを学ぶのではなくて、生きる知恵を学ぶところだと思っている。学校に行っても学ぶことだけが全てじゃない。クラスの人数が少ないからといって学びが少ないわけではなく、そこで多様性を生かして自分が学ぶ力もどんどんついてくると思う。

切磋琢磨という言葉もあったが、切磋琢磨が本当に必要なのか。ネット社会が進んでいて、自分の多様性や自己肯定感を上げなきゃいけない時代に、切磋琢磨して人と競争することが大事なのか。ビジョンを持って教育を考えないと、統合が広がっていただけだと思う。

この状況をどう変えるか意見交換出来るチャンスだと思うので、もう少し歩み寄った、多数決ではない、住民投票しない、こういう形で意見を話し合った上で決めますというところではないところで、御検討いただけるといいなと思った。

III. 地区住民対象説明会での意見・質問

【学校の位置・スクールバスに関すること】

15. 白浜にしても千倉に行くにしても、30分圏内で行ける範囲と書いてあるが、根本から千倉に行くとしたら30分では絶対行けないと思う。子どもに負担がかかるのではないか。

A. バスに乗っている時間については、試行をしている。中学校でもそうだが、例えば根本から乗せて、白浜駅の辺り、あるいは白浜中の辺りまで子どもたちを乗せて、あとはノンストップで行くという方式をとっている。

2便目では、白浜中学校のあたりから子どもたちを乗せて乙浜まで行って、あとは千倉までノンストップで行く形をとり、バスを走らせて時間を確認しているので、おおむね30分で十分通えるという判断をしている。

16. スクールバスの台数が増えるなど経済的なことを考えれば、白浜のほうを廃校にして、千倉のほうに運びたいというように受け取れる説明内容だったが、千倉小学校が白浜小学校に移ることは検討されていたのか。

A. 校舎の位置等に関しては、まだ検討していない。これは両地区で統合しようという方向で合同会議の段階になったら、それぞれの校舎を使ういろんな比較は具体的に出していきたいと思っている。

17. 警報が出たときはどうなるのか。一般的に警報が出ると、保護者の皆さんが迎えに行くというふうになっているが、皆さんが家にいるとは限らない。お仕事されている方などのことも考えていただきたい。

A. 大雨や警報の場合、通常のところは、子どもたちをすぐ迎えに行くということになっているが、南房総市は学校で預かるということでやっている。迎えに来なくて大丈夫。これは3.11の教訓である。子どもたちを返した幼稚園・小学校は、子どもたちが亡くなっている例が多いという教訓をもとに、子どもは引き渡し訓練ではなく、預かり訓練をやっている。引き渡すための3条件があり、まず、家の安全が確認されたこと。二つ目は、家と学校の間経路の安全が確認されたこと。三つ目は、子どもを学校から引き渡した後も大人が子どもと一緒にいられること。そういう三つの安全が確認された場合に、お迎えに来てくださいということで徹底している。

18. もし統合して例えば千倉になったときに、白浜と千倉の中間の学校を考えられることはあるか。そうすればお互いに距離がいいので、そんなに早く出なくて済む。

A. 学校の位置については、両地区で統合しようという方向が決まったら、合同会議で提案する。その際に、中間でというものも想定できるとすれば、候補の中に上がってくると思う。ただ目の前に、学年4人・5人の子どもたちがおり、新しく敷地を用意して校舎を建てるとなると、この子どもたちの小学校生活のかなりの部分が終わってしまう可能性もある。そういったものも含めて、校舎の位置については合同会議で提案する考えでいる。

19. 例えば、七浦小学校は合併してから建てられた？広さがどうかはわからないが。

A. 七浦小学校は廃校にして、今、医療施設になっている。医療施設だけではなく、地域の人たちが集う空間もある。なので、学校としては旧七浦小学校の可能性はない。
(※七浦小学校は千倉町で建築。)

20. 近所に中学生の子がいて、7時5分か6分頃にバスに乗ると思う。そうすると、一生懸命走って出掛けたり、乗り遅れて親が送ったりもする。中学生が早く起きればいいことかもしれないが、ましてや根本の子どもたちは結構大変だと思う。

A. 根本の子どもたちが今までよりも極めて早く家を出なくちゃいけないとか、そういうものについては、保護者が中心になった部会で検討していくので、そういったことは避けていきたいと思っている。

21. 学校の位置や学校名は、合併するという方向になって初めて決まるものだという話だが、それも含めていろいろ検討したいのが親の考えだと思う。大まかなものがわからないと、やっぱり進めないかなと思う。

A. 両地区で抱えている問題、子どもの数が少なくなっているという環境を違った環境にしていく、そういう方法そのことだけについて、まず方向性を決めていただく。学校がここだったら、今の子どもの数で、この環境のままでいいということは、あり得ないと思っている。子どもの数が極めて少なくなっていることを、どんなふうで統合で解決していこうという結論が両方で得られた場合については、その問題解消のために学校はどこがいいとか、それは次の課題になってくると思っている。

22. 例えば、千倉の子たちが白浜に来るとなれば賛成という方も多いかも知れないが、白浜だけが千倉に行くというのは負担が大きすぎるのではないか。

A. 合同会議でそういう主張をされて、それでもし合意が得られなかったら、統合はないということになる。具体的な校舎の位置などを話し合っていたら段階で、両地区で合意が得られなかったら、統合そのものがなくなると、そんなふう考えている。

23. もし（統合に）合意してその（学校の位置などの）話になって、やっぱりやめたいですというのものもあるのか。そこまでいったらもう進んでしまうのではないのか。

A. 学校の位置で、それは賛成できないという結論が多くなれば、統合そのものもなくなる。そういうことだと思っている。

24. その段階では、もう選ばれたその役員の方しかいないと思うので、住民の方々の声や親の声というのは、なかなか届きづらいのではないか。

A. 合間合間、話し合いの途中、あるいは一定の方向性が出た段階、そういった折で、このような保護者あるいは地区の方々への説明会は繰り返しやってきている。こういう説明会をもとに再編検討委員の皆さん方は協議するという仕組みになっている。この両地区の再編についても同じような形をとっていく。

25. 住民の声と親の声、子どもの声を真剣に聞いて決断していただきたいと思う。

【学校規模・複式学級に関すること】

26. 今の1年生の人数が6名と書いてあるが、7名いると思う。

A. 資料は5月1日現在の数字である。現在の状況については校長から説明する。

A. 5月1日現在は6人、その後転入があつて7人。この資料は5月1日現在になっているので6という数字になっている。

27. 小さい学校が悪いみたいな感じの話になっている。例えば学校を越えて今も交流はしていると思うが、その回数を多くしたり、行事を共同にしてみたり、統合しなくても他に方法がないのかなと思う。地域の人との関わりなどを大切にできるのが、少人数のいいところではないか。

A. 「少人数」の考え方が、私どもの認識と違うところがある。現在、南房総市の学校は

全て小規模校。6学年で12学級以上あると標準規模、11学級以下だと小規模校となる。「少人数学級」というのは決して4人・5人のことを言うのではなく、例えば35人一クラスで、これでは例えば算数、国語の勉強で人数が多いだらうから17人と18人に分けてやる。これが、いわゆる少人数の指導になってくる。

学年で15人以下、あるいは10人以下になってくると、少人数を超えて、極めて少ない数の学級ということになる。それはできるだけ防いでいかねばならない、ということを出されたのが、平成27年1月に文科省が出した、学校の適正規模ということ。

28. 白浜に一つも学校が無くなってしまふのが、とても怖いことだと思う。さらに過疎化が進んでしまふと思うし、それによって生じる影響がすごく大きいと思う。小さいなりにいいところを探して残すという方法を考えられないか。

A. 私どもは、何が何でも統合して、白浜小学校を廃校にするという考えは持っていない。

既に和田地区でも小学校・中学校がなくなっている。それでも5人・4人の集団で小学校生活を送らせることと、学校がなくなることを比較して考えて、統合の道を選んだのが和田地区だと思っている。皆さん方の御意見をいただいて、再編検討委員会でその辺りの結論を出していただくということを考えている。

少ない人数だけど頑張ってやっていこう、移住してくる人がいるだろうという想定も十分できるわけだが、逆にそういう教育環境であれば違った場所を選ぶ家庭が出てくることも想定され、両面考えなければいけないと思っている。

29. 今、日本全国で複式学級はいくつもあると思うが、全体的に複式学級というのは成功傾向にあるのか。やっぱり厳しい、教師の負担が大きいだとか、そういうデメリットのほうが大きいのか、全体的に見てどうなのか。

A. この近隣の地区、君津地区でも学校統合が進んでいる。隣の館山市でも、来年小学校は二つ統合することになっている。全国的には、この複式学級の解消を含めて学校統合は進んでいると思う。平成27年に文科省が手引きした、複式学級になりそうなものについては解消して、環境の改善、より良い方向に持っていこうという流れの中にある。

隣の館山市も、4校程度が複式学級で数年やってきている。これについても、北条小学校と館山小学校に全て統合することが決まっており、複式学級を解消する方向で進んでいる。教員にとっても子どもたちにとっても負担が多いのが複式学級だと思っている。

30. 教員が少なくなるとか、先生の専門分野が少なくなるなど、教員のことがたくさん書いてあるが、保護者等が教員のことまで考えなくてはいけないのか。教育委員会と県、市において教員を育てるものと思うが。

複式学級がとても悪いようなイメージで発言されているが、よくテレビで、分校で一人の子が卒業しましたという学校の子から「一人でとても嫌だった」という言葉は出ていない。複式学級だけがよくないような表現をされると、住民たちは、特に保護者たちもそうなのかなというイメージを持ってしまう。

A. 複式学級は、例えば国語の時間で、2年生と3年生が一つの教室で、教員は一人。そうすると、まず2年生に説明して、その間3年生は自習になる。2年生に話が終わって課題をさせ、今度は3年生の指導に当たる。なので、45分の授業をやっても先生が直接関わるのは半分になってくる。果たしてそういう学習がいいのかどうか。それでもいいんだという結論であれば、それで結構だと思う。

教員にとってはどういうことがあるかということ、通常2年の担任なら、2年の教科書の研究をして授業に臨めばよい。複式学級で2年生と3年生を担当するとなると、同じように2年と3年の教科書両方を勉強して臨んでいかなくちゃいけない。これはかなりの教員にとって負担になっていく。時間も限られており準備なども薄くなっていくと思う。したがって子どもたちに指導する場面で、その教材研究、教え方とか、そういうものの練度が、1学級で1学年指導しているものとは大きく違ってくると思う。複式学級の良さもあるかもわからないが、やっぱり子どもと教員にとっては非常に負担が多い。あるいは、デメリットが多い。あえてその道を取らないほうがいいのではないかというのが、私どもの判断。

分校で1名卒業して、嫌なことはなかったという。それしか経験してないわけであり、周りの大人たちからも温かい愛情を注がれて過ごしていたと思う。それはそれで、否定するものではない。ただ、統合してもっと大きな人数で生活学習できる可能性があるということ踏まえて、皆さん方に判断していただければと思っている。

31. 一人で2学年のことを教える。その生徒さんがあとの半分は自習をしなければならぬと。確かにそうだが、平成27年の文科省の資料によると、それでも成績は下がっていないということ。それと、一般の小学校1クラス30人ほどの方を見ている先生が言うには、家に仕事を持って帰っていると聞く。複式学級の先生は大変だが、一般の学級

を持っている先生も大変だと思う。複式学級だから大変というのは言い過ぎではなからうか。

今言っていたように、愛情がいっぱいあったからその方（分校で一人で卒業した子）はよかったと言ってもらえたということは、やっぱり人数の少ないところはいいこともあるということ、保護者の方たちにも伝えていただけたらいいのかなと思った。

A. 教員は一人だから愛情をいっぱい注ぐというわけではない。30人のクラスの子どもたちにも、人数が少なくても多くても、教員は愛情を注いで教育にあたっている。

もう一つの観点で考えていただきたいのは、例えば5月1日現在で3歳の子どもたちは、合わせて4人。男の子1人・女の子3人である。育っていくのは勉強だけではない。いろんな社会生活の始まりになる。

32. 男女は同じ数でないとおかしいのか。女の子だけの集団のクラス、男の子の集団のクラスがあって、何か不都合があるのか。

A. 男の子だけのクラスで幼稚園2年・小学校4年、合わせて6年間過ごした例がある。保護者にしてみれば問題が出てきて、非常に乱暴な状況になった。男女関係ないと言いが、世の中の縮図なので、男女バランスよくいるのがごく普通ではないかと思う。

33. 複式学級になったら女の子も男の子もいるし、都会の私立なんかは、男の子ばかりのクラスとか、女の子ばかりのクラスというのがあると思うが。

A. その見解については、私と違ってそれは結構だと思う。保護者、地域の人たちが、男女関係なく、4人・5人の学年の集団で白浜の子は育てていくんだ。小学校生活を送らせるんだ。そういうような結論が話し合ったら、私どもはそれに従う。

ただ、教育委員会の立場とすると、4人・5人の集団ではなくて、学校統合でもっと大きな集団、といってもそんなに多くないわけだが、そういう大きな集団でいろんな子どもたちと接する中でいろいろ学んでいく。そういうような環境で、小学校生活を送らせたほうがいいのではないかというのが、私どもの考えである。

34. 学校のほうでも、こういう少人数の場合は、ご父兄さんやおじいちゃん、おばあちゃんと関わりをたくさん持つことによって、人間形成がまた進むと思う。

【教員数に関すること】

35. 統合していったら、先生は余らないのか。

- A. もし2校が統合して、今まで20人いたものが15人で済むとすれば、その5人は他所に転勤するので、決して働き場所がなくなるということではない。

36. 教員の加配はある程度の条件が無いと受けられないと思うが、どの程度の条件が揃えば教員の加配が可能なのか。

- A. 基本的には、小学校は学級数プラス1の教員が配置される。この他に、例えば少人数指導の加配が欲しい場合については、35人や34人のクラスを基本としたときに、この場合については二つに分けて算数の指導をなささいということで、加配が一人つく場合がある。だが、専科加配についても、少人数加配についても、白浜小学校の規模では、要望しても加配が達成される見通しはないと判断している。

37. 免許外の資格について、自分の専門以外の教科を教えなければならない可能性というのが手引きの中に書いてあったが、専門性を教員のほうに十分得てもらったり、資格を取るための業務が増えるのであれば、それを参考に加配を検討出来ないか。

- A. 小学校なので、基本的には免許外指導の必要は生じてこないと考えている。小学校で考えられるのは、学校に配置される教員の数が少ない中で、全校の指導に当たる音楽・体育といったものについては、もしかするとその専門的なものがちょっと弱い教員で構成されてしまう可能性はあるが、基本的には、免許外の教員が配置されるというのは、小学校ではない。

【子どもへのアンケート等に関すること】

38. 学校統合するにあたって、子どもたちに聞き取りをしたか。大人だけで考えてもしょうがないと思う。子どもたちの意見を聞き取りしたかどうか聞かせてほしい。

- A. 結論から申し上げますと、聞いていない。今までどこの地区でも聞いていない。

39. それはなぜなのか。

- A. 大人が今まで歩んできた道や、そういうものを振り返って、この人数でいいのかどうか、これは大人が判断すべきことだと思っている。

40. 歩んだといっても、ずっと何十年も歩んでない。2・3年の話で進んでいるような感じがしてしょうがない。

A. 歩んできたというのは、例えばあなた自身が、数十年人生を重ねてきた、小学校生活も送ってきた、中学校生活も送ってきた。それを振り返って、大人の私達が判断すべきこと。そんなふうを考えている。

41. 今までそういう（少人数の）経験は、私どもはしてない。ここに来て初めて少人数になって、統合について話をしていると思うが、これからこうやって千倉まで通わなきゃいけないだよ、どうする。そういうのも大人だけの考えじゃなくて、子どもたちはどう思っているか、その辺を聞いてほしかったかなと思う。

42. 今のお話はすごくいいなと思う。小学生だからこそその意見ってあると思う。今の小学生、これから子どもたちに「統合どうかな」というのを聞いてもらいたい。南房総中に行った白浜の子たちや保護者の方たちにも、良かったのか、悪かったのか、大変さがあるのか、また、小学校の再編に関して意見を聞いてみたい。これから子どもの一番いい教育環境を整えていく責任を持っている保護者として、そういう意見も聞いてみたいと思った。

A. 私どもとして、それぞれ一人ひとりの子どもたちに聞く考えはないというのが、先ほど申し上げたとおり。私どもの経験とか知見とか、そういったものを考えて、踏まえて、子どもたちの教育のあり方については、私どもが責任持って、大人の判断として結論を出していくことを考えている。

ぜひ御家庭で子どもたちと話し合って、どんなお考えお持ちかということはやっていただければ。そして、私どもにまた会議等の折にお聞かせいただければ大変ありがたい。

43. 家庭ではもう話していて、息子はすごく千倉に行くことには前向きであるが、他の子どもたちの意見も聞いてみたいなのがあるのでは、もし簡単なアンケートなどでも行えるのであれば御検討いただきたい。

44. 子ども意見をというのに賛成。他の地域でアンケートをしていなくても、今回初めてでもいいではないか。遠くまでバスで通うのは不安もあるし、朝早く起きなければならない。千倉まで行くには何時に乗るんだろうとか、乗り物酔いする子はどのようにして学校に行ったらいいんだろうとか考える。もし教育委員会のほうでアンケートを行わないの

であれば、校長、学校独自でアンケートをしていただくことはできないのか。

- A. 保護者アンケートは実は去年も取っていて、そこに子どもの意見が一応反映されているのかなと、私も見ていた。

学校の中で低学年も含めてアンケートを取って、その数値を集めたときに、この検討委員会でそれをどう扱っていくかというところが非常に難しいとは思う。それをどう反映させていこうかということは、今後、考えていくことになると思うので、そういう意見があったことは受け止めたいと思う。

- A. アンケートをやらないのは前例がないからではなく、小学生の子どもに統合したほうがいいかを聞くことの意味というか、効果がどれほどあるのかということ。我々大人が責任持ってやっていくことだと思っている。

ただ、今御心配のように、負担などについては十分考えなくてはいけないと思っている。したがって、バス通学の方法については、保護者で構成した通学支援部会で、どこに停留所を設けるか、何時発にするかなど、保護者を中心に話し合っていて決めていくので、今回もし統合ということになって、スクールバスを走らせることになれば、そういうような形になるかと思う。あとは個別の対応など、状況に応じて考えていく。

【閉校した学校の利活用に関すること】

- 45. 子どもたちが減ってくるので、再編はやむを得ないと思う。仮に白浜小学校が廃校になったときに、どのように残すか考えはあるか。**

- A. 現在の段階では、学校統合するか結論が出ていないので、全くプランは持ってない。

学校再編が進んで学校統合に決まり、どちらかの校舎を使わないことがわかったら、まずは、市として公的にそこを使うか検討する。もし公的なものとして使わない場合は、民間などの検討になる。校舎そのものを使わなくなっても、例えば緊急時の避難場所として体育館を残すなども検討の課題になっていく。今の段階では全くの白紙である。

- 46. 白浜中学校はまだそのまま、この後何をするか住民にはわからない状態。その前例がある中で、今回、白浜小がもしかしたら廃校するかもしれない。白浜中があのままなのに、どういうふうを考えているのか。**

- A. 白浜中学校の跡地については、御懸念いただいて大変申し訳ない。

白浜中学校の敷地の中に相続人などが不明な民地があり、面積としては少ないが、そ

れをどういう形で市有地にしていくかなど、裁判所のほうの手続きをとっている。これが終わり次第、具体的な検討に入っていく予定になっている。

47. 建てた時に（学校敷地内に私有地があることに）気付かなかったのか。

A. 白浜町が建てる時、そのあたりを確認できていなかったものと思う。当時どういう経緯であったかわからないが、民地が残ったまま建設等が進んでいたということ。

現在の校舎建設の際も、これまでも白浜町の土地であったため、当然全て市の土地だという思い込みで進めていたと思う。結果的には大変申し訳ない状況だということで、お詫び申し上げるしかない。

48. 白浜中学校の中に私有地があって、それがわからないと言っていたが、昔、学校の事務をしていた時、毎年5月1日に学校の土地や建物についての調査があって、文科省にもそれが上がっているはず。そこには私有地を記入する欄もあったはず。それが正しく文科省のほうに上がっていなかったのだろうか。その辺がとても不思議に思う。

A. 私どものほうで調査して報告するものについては、そういう内容は含まれていなかったと思う。全体の広さとか、運動場は何平米とかそういったもの。非常に細かく分筆されている、その中の一部が無かったということなので、これまでトータルで考えていて、細かいところまでの調査と確認は今までなされなかった。これは大変手落ちだと言えばその通りである。今回改めて細かく確認したところ、そういうところが出てきたということで、御理解いただくしかない。

49. 災害のとき、廃校してしまっていたら学校自体が（避難場所として）機能するのか。住民の皆さんを守る場所として使えるのか。

A. 校舎については災害云々も考えて、その後の利活用は考えていく。

もう一つは、例えば七浦小あるいは和田小などは避難場所として考えて、体育館は社会体育施設として残している。通常、地区の方々が運動などの形で体育館を使って、万が一の場合については避難場所として想定して残している。白浜地区・千倉地区についても同じような考えになるかと思う。

50. もし廃校になった場合は、体育館で何人の方がそこに避難できるか数えてあるのか。

地区としては、大きな災害があったときに「じゃあどこに行けばいいか」ということにもなるので、消防防災課に意見を十分伺って、その辺を十分検討していただきたい。

- A. 避難所については、消防防災課が中心になって決めていく。体育館を残した場合について、災害が起きた後の何日間か過ごすような施設になるのか、あるいは雨風をしのぐための一時的な避難場所になるのか、そういったところも含めて、白浜地区全体で総合的に判断して決定することになる。私が申し上げたのは、可能性として、体育館が一時避難場所などの価値があれば、当然社会体育施設として残して、体育の面でも活用していくし、一時避難場所としても活用していくという、そういう可能性をお話した。

【その他のことについて】

51. 資料に、学校統合による課題というのが3つ書かれているが、現時点で、この課題についてどのような対応を考えているのか。

- A. 一つ目の、通学時間が長くなるなどについては、今までの学校統合では起きていないと考えていただければと思う。バスを利用することによって、徒歩で通っていたときよりも家を出る時間が少し遅くなったとか、あるいは通学時間がかからなくなった、ということが、聞こえてくる声として把握している。

また、運動不足について取り組んでいるのは、各小中学校で週2日か3日の「5時間の日」をつくっている。昼休みの時間を長くしたり、スクールバスの時間までが子どもたちの遊ぶ時間になっている。私どもは「三つの間」と言っているが、仲間・時間・遊ぶ空間。この三つを大事にしようということで、運動不足あるいは人間関係が希薄になることの解消に努めている。

二つ目の、児童生徒にとっての環境の変化。これは大変大きいものだと思っているので、今まで学校統合があった学校は職員一丸となって、まず子どもたちの表情・様子を観察すること、よく見ること、声をかけること。もう一つは、各学校で統合した後のテーマを持って、それに向かって全校生徒が取り組んでいるので、おかげさまで統合した後の学校は、どの学校も子どもたちが喜んで通学している状況を作り出していると把握している。

三つ目の、地域の学校がなくなるということだが、確かに学校の施設そのものはなくなるが、校外学習などについては、学区が広がった分、それぞれの元の学区まで校外学

習を広げて勉強するような形もとっている。

跡地をどうするかということも、大きな観点として考えていかなければいけないと思っている。学校に代わるものとか、そういったものを当然視野に入れて検討をしていくことになるかと思う。

52. 市のほうでは、2拠点生活とかIターンとかUターンとか、空き家に関するいろいろな業務をやっていると思うが、小学校・中学校のない地域に、果たしてIターン・Uターンする希望者がいるのか。市の施策と反する意義の政策が同時に進んでいるのではないか。市の中で整合性のある施策をやっていっていただきたい。

A. 全体的な市の施策の関連について、例えば和田地区には学校がなくなったが、移住者は来ている。平群地区も、平群小学校がなくなったが、移住してきている人たちはいる。

学校がなくなるという発想もあるが、学区が広がるという発想を是非していただきたい。統合しても、白浜地区には小学校はあるんだ。白浜地区も新しい学校の学区の中にあるんだという。何より考えなくちゃいけないのは、1学年4人・5人で小学校生活を送らせることはどうなのか。このことは、一番真っ先に考えて、この白浜地区で結論を出していただければというのが、教育委員会の一番の基本的な考え。